

「のど」のがんについて

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 先進治療科学専攻
感覚器病学講座 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野 教授

山下 勝



図1 舌癌（左舌縁癌）

鹿児島市医師会の皆様にはいつも大変お世話になっております。

まず初めに学会の名称変更のお知らせをさせていただきます。われわれの基本領域の学会名が「日本耳鼻咽喉科学会」から「日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会」に改称されました。これは、一般の方々に耳鼻咽喉科が外科的診療をするイメージが浸透していないこと、および米国など海外では「Otolaryngology-Head and Neck Surgery」と表記され、日本国内の大学の72%の診療科（講座）名が「耳鼻咽喉科頭頸部外科」または「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」となっていることに基づいています。

それでは今回は、専門外の先生方に知っていただきたい「のど」のがんについて書かせていただきたいと思います。頭頸部癌は進行すると、感覚器、呼吸、嚥下、発声に様々な機能障害を生じ、非可逆的となる可能性があります。専門外の先生方が、少しのポイントに気を付けていただけるだけで早期発見・早期治療に結び付く可能性が増えると信じております。

まず、患者さんが訴える「のど」という場所は非常に広く、口腔、咽頭、喉頭、頸部の中央のあたり、顎下腺、甲状腺までも含むことがあります。はっきり部位が特定できないときは、「おかしいところを指1本で指し示

してください」と聞き、鑑別疾患を絞ります。

舌癌を含む口腔癌は頭頸部癌の中で最多です。舌癌は通常舌の左右の縁にできます（図1）。カリエスや歯槽膿漏などの不良歯牙、歯牙や補綴物の先鋭化を伴う症例によく認められます。舌への慢性刺激が誘因となり、時に口内炎として長期に保存的治療を行われた後に紹介されてくるケースもあります。触診を行ったり、1-2週間で改善しない口内炎では組織検査を行うことで早期の治療に移行させることができます。

咽頭は、上咽頭、中咽頭、下咽頭に分けられます。上咽頭癌はEBVとの関連が示されており、鼻腔の突き当りに生じます。このため、鼻閉や耳閉感を生じます。頭蓋との距離が短く、外科的治癒切除が困難となりやすいため、化学放射線治療が選択となります。中咽頭癌（図2）はHPVが検出されるタイプとされないタイプに分類され、前者は若年者に多く治療成績が良いことがわかってきました。このため、Stage分類も両者で異なります。手術や化学放射線療法がおこなわれます。下咽頭癌（図3）は喉頭のすぐ後ろに存在するため、大きな切除では喉頭全摘術となり、発声機能を失うことがあります。いずれの咽頭癌も早期では症状に乏しく、頸部リンパ節転移や呼吸



図2 中咽頭癌（左側壁癌）



図4 喉頭癌（左声門癌）



図3 下咽頭癌（左梨状陥凹癌）

困難、嚥下困難、嚔声にて発見されることが多いです。一方で、中咽頭の一部分は舌圧子とペンライトで確認できますし、上部消化管内視鏡検査において食道までの領域を注意深く観察していただくと早期の状態で見えることもあります。実際にそのような症例は増加傾向にあり、経口的な切除のみでコントロールできることが増えています。また、頸部も少し触診してみてください。左右差がある、硬いリンパ節を触れるなどがありましたら、是非お近くの耳鼻咽喉科医にご紹介ください。

喉頭癌（図4）は高齢喫煙者に多く認められます。COPDなどがある患者さんで嚔声がありましたら、声帯の観察をお勧めします。早期癌であれば、放射線治療や経口的手術のみで治療できる可能性があります。

唾液腺癌、甲状腺癌、頸部腫瘍に関しては、

触診や超音波検査を行い、早期に左右差や腫瘤を見つけることが重要です。但し、早期の甲状腺癌に対しては積極的な外科的治療を行わないこともありますので、甲状腺外科医または耳鼻咽喉科医にご相談ください。

「がん」の治療法についても大きく進歩しています。放射線治療は強度変調放射線治療（IMRT）が行われ、化学療法では様々な分子標的薬が使用できるようになってきています。また、化学療法の副作用を軽減する手法についても確立されてきました。手術療法においても鏡視下手術などの低侵襲手術が身近なものになりました。関西BNCT共同医療センター（大阪医科薬科大学）と南東北BNCT研究センター（南東北総合病院）ではホウ素中性子捕捉療法を行うことができ、この先、ロボット手術や光免疫療法なども普及していく見込みです。

様々な治療法の選択肢が増えることは適切な治療を患者さんが選択できる、とてもよいことなのですが、頭頸部癌において最も重要なことは予防と早期発見です。大量の飲酒・喫煙を控えるよう指導いただくとともに、先生方の早期発見から治療医へのスムーズな連携体制がとれるよう、今後ともご協力をいただきたいと思います。

新型コロナウイルスの終息にはもう少し時間を要すると思いますが、鹿児島市医師会の先生方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。